

ずいひつ No.88

2013年7月25日発行

家族の本棚の前で過ごしてみる面白さ

暑い日が続いています。ちょっと時間が空いても、外を散歩する気になれません。そんな時、私がお薦めしたいのは家族の本棚をみることです。家族がお薦めする本を紹介してもらおうというわけではありません。あなた一人で本棚の前に立って全体を見て下さい。そしてできればそこで何時間かを過ごしてみて、何冊か手にとってみましょう。

あなたの家族はどんな本を置いていますか？どうしてその本はそこにあるのでしょうか。よく知っているはずの家族の知らなかった面がみえるかもしれません。忘れていた何かを思い出すかもしれません。または、知らなかった家族の歴史がわかるかもしれません。棚という大げさなものなくても、本を置いてある場所はどこかにあると思います。たとえ本を読まない家族だったとしても、本当に一冊の本も雑誌も、漫画や卒業アルバムもどこにもありませんか。

私は小学生のころから、両親の本棚が好きでした。今の時代とは違い、携帯やパソコンが無いせいか、たっぷり時間がありましたのでよく手に取りました。母はサスペンスものやエッセイが好きなようで、そういう文庫本が並んでいました。父はいわゆるハウツー本、特にビジネス本とゴルフの本を沢山持っていました。電車通勤していましたので、そういう時に読んでいたのでしょうか。また営業職だったためか、流行した本は積極的に購入していたようでハードカバーの本を多く持っていました。残念なことに引っ越しで大半を処分してしまいました。流行外ではノンフィクションや歴史小説が主だったように思います。ひとつの本棚の上と下が父の場所で、中が母の場所でした。

成人してから祖父母と同居することになりました。私は、祖母の本棚も手に入れました。母方の祖母だからでしょうか、同じ女性だからでしょうか、母の本棚にある本と同じ本が何冊もありました。まだ読んでいなかった本はさっそく通勤電車の中で読みました。一方祖父は本をあまり読まない人だったのでしょうか。片手に収まる程度の、興味を引かない本だったようでジャンル等の記憶がありませんが、ひ孫のために購入した絵本は別の場所に残っています。

現在、両親+祖母の本棚は整理されて無くなりました。それにかわるものとしては、規模は小さくなりましたが、居間の隅に父親の本置き場があります。〈写真〉

あいかわらず、流行の本は気になるようです。中段に井上ひさし氏の本がありますが、昔は沢山あったなと懐かしく感じました。孫との会話の本もあることが、私の父親らしいです。寝室にも本コーナーがあり、そちらにはハードカバーの本と、ゴルフの本やお酒等の趣味の本がありました。

普段家族の方と離れていても夏休みということで、帰省する方もあることでしょう。今は便利な世の中なので、「写メで送って」と言うだけでも実行してみると面白いと思います。そして、気になる本があれば当館に所蔵があるかどうか調べてみて下さい。



(貸出返却担当 T美)